

2007 年太平洋地域は穏やかな成長、アジア開銀予測

【東京 2007 年 3 月 27 日】 アジア開発銀行（ADB）が本日発表したレポートによると、ADB に加盟している太平洋地域の途上国 14 カ国の 2007 年の成長率は、パプアニューギニアの成長加速と東ティモールの回復を受けて、4.5%の伸び率となる見込み。

2006 年、太平洋地域の経済成長率は、2005 年の 2.5%から 3.1%に上昇したと、ADB の代表的な年次経済刊行物である『アジア開発展望（Asian Development Outlook=ADO）』2007 年版は述べている。

「大半の太平洋諸島の政府にとって、課題は民間主導の自立経済の促進だ」と、ADB のチーフ・エコノミスト、イフサル・アリは言う。

『ADO 2007』は、アジア太平洋地域の途上国の成長率を、2007 年は 7.6%、2008 年は 7.7%と予測している。

2006 年の太平洋地域の社会不安は、今後何年も同地域の経済成長に影を落とすだろうと、『ADO 2007』は述べている。その根底にある若年層の高失業率などの問題は、まだ対策が取られていないケースが大半だ。この地域における経済成長と雇用創出のカギは、構造改革、持続可能な財政政策、および慎重な金融政策である。

フィジー諸島の経済成長は 2006 年、砂糖生産の回復、建設の増加、消費需要に刺激されたサービス部門の成長により 3.4%に上昇したが、同国経済は困難な構造問題に直面している。2006 年後半の政情が経済に及ぼした影響に対する懸念が高まっており、今年は経済の縮小が予想されると、『ADO 2007』は述べている。

パプアニューギニアは、堅調な商品価格、農業・鉱業部門の供給が好調なこと、および健全な財政金融政策のおかげで 3.7%の成長を記録。経済には、さらに急速に拡大する潜在力があるが、法体制、インフラ強化、適正な公共サービスの提供確保が必要とされる。

東ティモールでは 2006 年、社会不安が経済発展に悪影響を及ぼし、非石油 GDP が 1.6%減少したが、今年は石油・ガスの収入に支えられ、急反発が予想される。東ティモールには健全な開発計画と援助国からの支援があるが、今後の経済成長と発展には、予算計画の円滑な実行および平和・安定の維持が欠かせない。

パラオ、サモア、ソロモン諸島、バヌアツは 2006 年、4.6 から 5.7%と比較的高い成長率を経験した。パラオとバヌアツでは、観光が経済成長を支えた。

サモア経済は、建設、サービスおよび行政の拡大に裏打ちされて成長した。ソロモン諸島は 2006 年 4 月の社会不安の影響を乗り越え、木材産出、漁業、パーム油生産の成長に助けられて、経済成長率が上昇した。

マーシャル諸島共和国とツバルの2006年の成長率は3%。マーシャル諸島では人口増加率を下回る数字となった。

クック諸島とトンガは2006年の成長率が、それぞれ1.8%、1.9%と振るわなかった。クック諸島では、低い農業生産高と建設活動の減少が、観光客増加を相殺して成長の足かせとなった。トンガでは農・林・水産業の減速が、11月の社会不安と相まって、成長に悪影響を与えた。

マニラに拠点を置くADBは、貧困削減に向けた持続可能な経済成長、社会的発展、優れた統治により、アジア太平洋地域における貧困削減に取り組んでいる。1966年に設立され、67カ国が加盟しているが、そのうち48カ国はこの地域の国々である。06年には総額85億ドルの融資・無償援助と2億4,200万ドルの技術支援を承認している。

Media Inquiries

Omana Nair
T: +63 2 632 5178
M: +63 918 914 7003
E-mail: onair@adb.org

Sabyasachi Mitra
T: +63 2 632 4139
M: +63 918 939 9069
E-mail: sabymitra@adb.org

Electronic versions of ADB news releases

ADB Online Media Center: media.adb.org
ADB web site: www.adb.org